黒埼町の今昔

町史編さん課

木場下組敬神演芸部(三)

今は見られぬ神楽舞の余興。そして、演芸部、巡業に出る。

「狐釣り」狐に化かされているところ。水の中にいると思い、着物をぬいで頭にのせ、ふんどし一つになって、水の中で泳ぐしぐさをする。
(実際に畑の中で踊ったわけではありません。)

◉「神楽の寝せ起こし」踊りと口上の中の薬

才蔵が口上を言い終わると、もったいぶったしぐさで腰に下げた巾着の中から、丸薬を取り出し、横になってじっと動かぬ神楽の口に入れて飲ませる。すると、それまで死んだようになっていた神楽の片方の耳がかすかに動く。また、片方もピクリと動く。そして、アクビをしたり、自分の足にじゃれたりしながら、しだいに元気を取り戻して、最後には立ち上がって踊り出す。

才蔵の口上だけでなく、万金丹の一服で元気を取り戻していく神楽を演じる、中の二人の息の合った踊りぶりも見ものであった。

才蔵が口上の中で述べた薬の名は、皆昔なつかしいものばかり。越中富山の千金丹は最も有名だが、鳥原真浄寺の赤玉園、木場満行寺のキンショウ丸も、昔このあたりでは知られた名薬だったという。

キンショウ丸について木場満行寺にきいてみた。現住職嶋津恵麟さんが子供のころ(昭和二十四、五年)まで同寺では寺薬としてキンショウ丸を年始等に檀家へ配っていた。寺に昔から伝わる処方せんによって、薬種商から薬を買ってきて寺で製造したが、戦後薬事法により廃止された。風邪や胃腸病によく効いたという。

◉奇妙な筋の「天狗舞」

神楽舞の余興としては、他に「天狗舞」と「狐釣り」がよく踊られた。

天狗舞は木場に昔から伝わる踊りで、猿田彦命を天狗に見立てて、セックス踊りを交えた狂言芝居といわれる。

百姓の夫婦と娘が麦まきや麦踏みの作業をしていると、急に天気が悪くなり、黒雲の中から天狗がセックス踊りをしながら出てくる。そして農夫らの作業を邪魔して追い散らしてしまう。すると、今度は神楽が出てきて天狗と戦うが、最後には神楽が天狗に敗れ、天狗は敗れた神楽に乗って退場する。天狗退治に出た神楽が負けてしまうという、ちょっとわからない筋になっている。

麦まきの百姓夫婦に豊田昭二、故土田二郎、天狗は佐藤義信、この踊りの師匠は故一箭助吉だった。

◉身振りおかしい「狐釣り」

この踊りは天狗舞と同じメンバーで踊った。才蔵の「狐が悪さをして困る」という口上で始まり、舞台の中央で狐に化かされた人が「おやおや、ここらあたりは豆や大根畑だと思ったのにどうしてこんなに水がいっぱえのがんだろう」といって、着物を脱いで頭にのせ、ふんどし一つになると「おお深、おお深」と水の中を泳ぐしぐさをする。まもなく狐に化かされたことがわかり、村人は狐退治をすることになる。

まず、狐を誘い出すため、狐の大好物、油揚げを竹にぶら下げ「狐釣りましょ、七尾の狐、油揚げに釣りましょ」と狐を誘い出し、狐が出てきたところを退治するというものである。

この踊りも天狗舞と同じく、能狂言から出たものといわれるが、踊り手がセックスのしぐさを交え、身振りおかしく踊るので、非常に楽しい踊りだった。

◉狛犬奉納のための巡業

村の産土神木場八幡宮へ狛犬の奉納を決めた下組敬神演芸部員たちは、その奉加金を集めるため、昭和二十一年の春ころから、休日を利用しての門づけ巡業に出ることになった。(門づけとは、人の門口で音曲を奏して金銭をもらって歩くこと)

巡業には部長の荒木留吉以下部員二十余名全員が、よほどのことがない限り参加することになった。

まだ一般家庭に車のなかった時代だから、巡業に出れば帰るまで、たとえ三里(十二キロメートル)でも五里(二十キロメートル)でも全部歩き通しである。だから一見華やかで楽しそうに見える巡業も、部員たちにとって大変な重労働だった。しかも、巡業のほとんどが休日を利用して行われるため、年中無休と同じで、その労苦は並たいていのものでなかった。

部員たちの若さと団結心があったからこそ、この事業が達成できたのだといえる。

まず、村内を皮切りに西は貝柄、升岡、曽根、巻まで、北は小新、小針、青山、平島から新潟まで、新潟は東西新潟を何日もかけて回った。

松浜、葛塚、月岡温泉、出湯、村杉温泉へも行った。吉田の帰りに弥彦の温泉街を門づけしていて、二階から紙にくるんだ銭や札(百円だったか)が降ってきたのには驚いた。こうして巡業は二十三年八月の目的達成まで二年間も続けられた。時には一泊二日の巡業に出たこともあった。

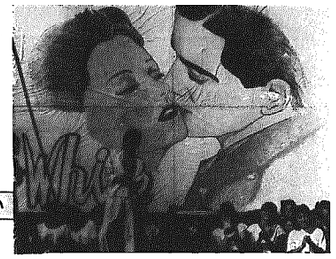
中でも、昭和二十二年盆休みの巡業が思い出深いものだった。

執筆・宮田栄門

「狐釣り」狐をおびきよせるところ

ニュース足報

毎月15日ごろまでにご連絡ください



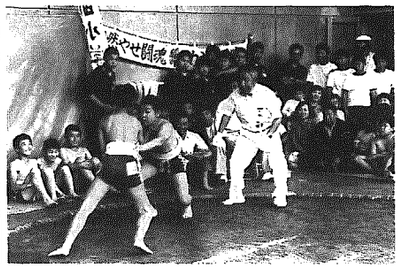
黒埼高体育祭6月22日

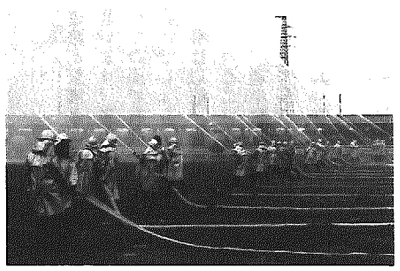
わんぱく相撲黒埼場所

青年会議所主催の第2回わんぱく相撲黒埼場所(少年相撲大会)が六月二十一日(日)、総合体育館相撲場で行われました。結果は―団体①立仏小②大野小③山田小　個人優勝…小四乙山建太郎(大野)・小五田辺正史(立仏)・小六山崎博生(大野)　※以上三人は全国大会へ出場。中一桜井直樹・中二北野裕康・中三山際守樹。

ゴミ収集場に花を

黒埼中の第二体育館の裏手にゴミ収集場がありますが、そこに花が植えられています。ダリアやカンナ、ペチュニアイワカガミなど。草取りや花植えをした那須野庄三郎さん、小能英雄さんは「中学通りのうち六十世帯が使うゴミ置き場。きれいにすれば、利用する人もきれいに使ってくれると思って」と話しています。





消防団の連合演習

年に一回、町の消防団が一堂に会し日ごろの訓練の成果を見せる消防団連合演習が六月二十一日(日)、総合体育館前の広場で行われました。消防団は八分団、二百五十五人から成り、団長は種村清松さん(板井)です。当日は演習のほか、郡の小型ポンプ操法競技会に出場する第六分団(善久・柳作)の模範演技もありました。

幼児から交通安全

五月二十九日(金)、総合体育館で下越地区三十市町村の保育所、幼稚園の先生など百三十人ほどが集まり、幼児交通安全教育指導者研修会が開かれました。新潟女子短大の松木先生は交通安全にも「三つ子の魂百まで」が言えるので幼いときの安全教育が大切と講演。交通ルールの教え方などの実技指導もありました。

善意の窓

佐藤秀男さん(鳥原384―1)が児童遊園整備の協力として水銀灯一灯(六万五千円)を寄付。

中村健夫さん(下山田2035)が香典返しとして教育に役立ててと五万円を寄付。

スポーツ大会結果

中学通りが優勝　学童リレーは板井

◆町民大運動会

6月14日(日)　黒埼中グラウンド

①中学通り68点　②板井61点　③立仏59点　④木場57点　⑤北場56点　⑥黒鳥55点　⑦大野53点　⑧寺地団地53点　⑨山田53点　⑩鳥原大明53点　⑪柳作51点　⑫小平方50点　⑬鳥原本村48点　⑭鳥原新田47点　⑮寺地47点　⑯善久43点　⑰鳥原新地41点　⑱川原40点　⑲金巻39点　⑳蓮方団地38点

▶学童リレー　男子①板井②立仏③山田　女子①板井②中学通り③大野　▶年代別リレー　男子①木場②山田③立仏　女子①木場②善久③大野

3連覇ならず　三世代ゲートボール

◆三世代交流全国ゲートボール大会新潟ブロック大会(県予選会)

6月7日(日)　柏崎市鴨が池コート

黒埼町から木場チームと黒埼チームが参加し予選を通過したものの、決勝トーナメントで木場は1回戦で敗退、黒埼チームは決勝で新津チームに16―13で惜敗しました。県内から27チームが参加。黒埼チームは三連覇なりませんでした。

町民運動会

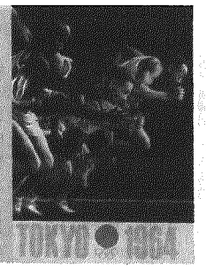
新潟が生んだ世界のデザイナー

亀倉雄策展

7月4日(土)―――8月16日(日)

新潟県美術博物館(県民会館3階)

入場料　一般600円、小・中学生400円



さつき展・金賞

●町長賞…山際長吉●名花…鈴木常一●銘木(大)…小林巌●銘木(中)…池田熊男●銘木(小)…小林巌●益養…佐野貞之●公民館賞(一般投票)…白井重雄　※敬称略

6月6日(土)・7日(日)
環境改善センター